

Sun Fire X4470 M2 サーバー

Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル



Part No.: E23459-01
2011 年 6 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

このマニュアルの使用方法 v

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード vi

1. はじめに 1

サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム 1

Oracle Solaris マニュアルセット 2

インストール時の注意事項 2

インストール作業の概要 3

2. Oracle Solaris 10 のインストール 5

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール 5

インストールを開始する前に 6

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール 6

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール 12

インストールを開始する前に 13

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール 13

Oracle Solaris のインストール後の作業 18

重要な Solaris パッチのインストール 18

RAID 管理ソフトウェアのインストール 18

A.	サポートされるインストール方法	19
	コンソール出力	19
	インストール起動メディア	21
	インストール先	23
B.	新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	25
	BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	25
	インストールを開始する前に	26
	▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集	26
C.	Tools and Drivers Firmware のダウンロード	29
	ダウンロード手順	29
	▼ Tools and Drivers Firmware のダウンロード	29
D.	サポートされているオペレーティングシステム	31
	サポートされているオペレーティングシステム	32
	索引	33

このマニュアルの使用方法

このガイドでは、Sun Fire X4470 M2 サーバーを Oracle から構成して使用可能な状態にするためのオペレーティングシステムのインストールおよび初期構成に関する手順について説明します。

本書は、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [v ページの「製品のダウンロード」](#)
- [vi ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [vii ページの「サポートとトレーニング」](#)

製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーと サーバーモジュール (ブレード) のダウンロードデータは My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には、2 つのタイプのダウンロードデータがあります。

- ラックマウントサーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または Network Express Module (NEM) に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。このソフトウェアには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

1. (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチとアップデート)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。
5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし、選択肢を表示してから、該当するリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。
製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4470 SW 1.1 リリース向けのパッチ 10266805) を選択します。
10. 表示された右側のウィンドウで、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
Oracle のすべてのドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Fire X4470 M2 サーバー	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&id=homepage
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&id=homepage

このドキュメントに関するフィードバックは、次の Web サイトから送信できます。

(<http://www.oraclesurveys.com/se.ashx?s=25113745587BE578>)

サポートとトレーニング

これらの Web サイトでは追加リソースを提供しています。

- サポート (<https://support.oracle.com>)
- トレーニング (<https://education.oracle.com>)

第1章

はじめに

この章では、Oracle Solaris オペレーティングシステムを Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーにインストールする方法の概要について説明します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 1 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
- 2 ページの「インストール時の注意事項」
- 3 ページの「インストール作業の概要」

サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム

Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムをサポートします。

- Oracle Solaris 09 10/10

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新一覧については、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

Oracle Solaris マニュアルセット

このガイドのインストール手順では、Solaris のインストールを開始する手順の概要を説明しています。サーバーに Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする方法の詳細は、次のマニュアルセットを参照してください。

(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19253-01&id=homepage>)

インストール時の注意事項

x86 サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
オペレーティングシステムを手動でインストールするためのローカルまたはリモートによる配備方法の選択	<p>オペレーティングシステムは、サポートされる配備方法のいずれを使用してもインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none">内蔵または外付けのストレージデバイスおよび接続された KVMs を使用するローカルインストール。Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールまたは JumpStart カスタムインストールのいずれかを使用したネットワークインストール。	<ul style="list-style-type: none">付録 A サポートされるインストール方法『Solaris 10 09/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』『Solaris 10 09/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』
RAID ポリユームの作成	<p>起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、ドライブで RAID ポリユームを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタを使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティを使用して、RAID ポリユームを設定する必要があります。手順については、『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーズガイド』を参照してください。オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用している場合、BIOS 構成ユーティリティを使用して、RAID ポリユームを設定する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA Internal Installation Guide』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーズガイド』、次の Web サイトで入手可能: (http://www.lsi.com/support/sun/)『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA Internal Installation Guide』18 ページの「RAID 管理ソフトウェアのインストール」

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS の出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none"> • 付録 B
オプションの追加ソフトウェアのインストール	オペレーティングシステムのインストールを実行したあとに、システムに関連のある重要な Solaris パッチのインストールが必要となる場合があります。Solaris パッチには、新機能、機能の強化、および既知の問題に対する修正が含まれています。	<ul style="list-style-type: none"> • 18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」
OS のインストールに関する最新情報とパッチの入手	サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチについては、『Sun Fire X4470 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4470 M2 サーバーご使用にあたって

インストール作業の概要

Oracle Solaris 10 09/10 オペレーティングシステムをインストールするには、次に示す作業をすべて順番に実行します。

1. Oracle Solaris 10 09/10 オペレーティングシステムのインストールメディアを入手します。
Solaris オペレーティングシステムの DVD メディアはサーバーに付属しています。
2. オプションの Documentation and Media Kit DVD で提供される Tools and Drivers Firmware を入手するか、または、[付録 C](#) を参考にして、サーバーで利用できる最新のドライバとユーティリティをダウンロードします。
3. [付録 A](#) を参考にして、Solaris インストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. [第 2 章](#) で説明する、Solaris インストールの実行手順に従います。
5. [18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#) で説明する、Solaris のインストール後の作業を実行する手順に従います。

第2章

Oracle Solaris 10 のインストール

この章では、Oracle Solaris 10 09/10 オペレーティングシステム (Solaris 10 OS) を Sun Fire X4470 M2 サーバーにインストールする方法について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 5 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」
- 12 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」
- 18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」

インストール済みの Solaris 10 OS イメージを設定する方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の設定手順を参照してください。

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle Solaris 09 10/10 以降のリリースの DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 09/10 以降のリリースの ISO DVD イメージ

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、12 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」で手順を確認してください。

インストールを開始する前に

この節のインストール手順を開始する前に、次の要件を満たすようにしてください。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 1 章](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[18 ページ](#)の「[Oracle Solaris 10 OS のインストール後の作業](#)」を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。

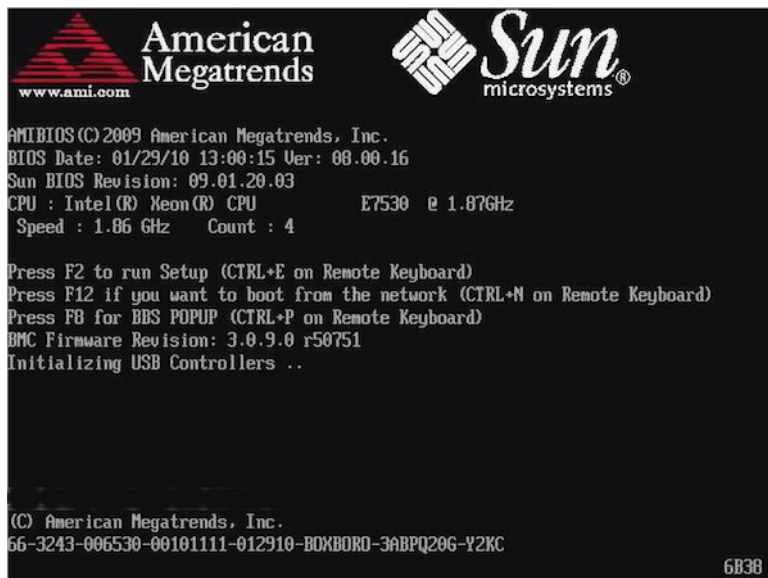
- **ディストリビューション DVD を使用する**場合。ローカルまたはリモートの DVD ドライブに Solaris 10 DVD を挿入します。
- **ISO イメージを使用する**場合。ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように表示されます。

- **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS** BIOS 画面が表示されます。



注 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Solaris のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。

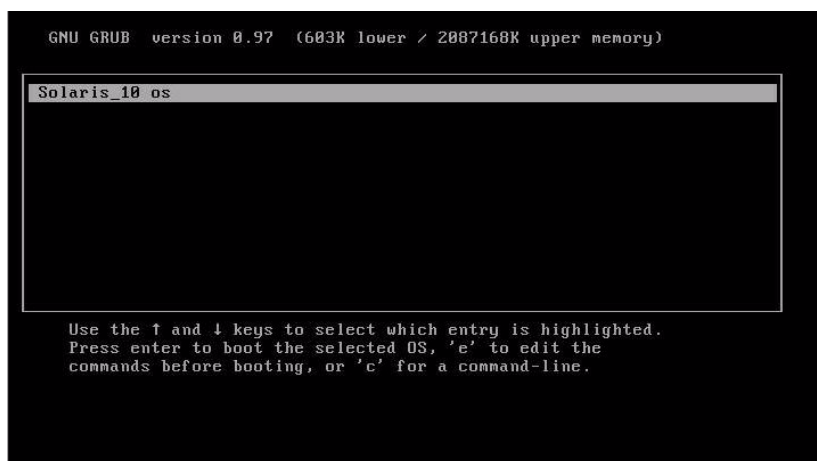


4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、最初の (一時) 起動デバイスとして外付けまたは仮想 DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

手順 3 に示す「Boot Device (起動デバイス)」メニューの例では、最初の起動デバイスとして仮想 DVD デバイスが指定されています。

注 – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、リダイレクトされた DVD から Solaris のインストールを実行している場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。この項目は、リダイレクトされた DVD からインストールを実行するときに、「Boot Device (起動デバイス)」メニューのオプションとして表示されます。

「GRUB」メニューが表示されます。



5. 「GRUB」メニューで、「Solaris_10 os」を選択し、Enter キーを押します。

注 – インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行の起動フラグに **,console = ttya** を追加します。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「Install Type (インストールの種類)」メニューが表示されます。


```
SunOS Release 5.10 Version Generic.141445-09 64-bit
Copyright 1983-2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Configuring devices.
/

1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
   (Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Automatically continuing in 15 seconds
```

6. 「Install Type (インストールの種類)」メニューで、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択します。
- グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト) – 1 を入力して Enter キーを押します。
 - デスクトップセッションからのテキストインストーラ – 3 を入力して Enter キーを押します。
 - コンソールセッションからのテキストインストーラ – 4 を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類により異なります。この手順で示す以降の画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「Configure Keyboard Layout (キーボードレイアウトの設定)」メニューが表示されます。

```

Done mounting Live image
USB keyboard
 1. Albanian
 2. Belarusian
 3. Belgian
 4. Brazilian
 5. Bulgarian
 6. Canadian-Bilingual
 7. Croatian
 8. Czech
 9. Danish
10. Dutch
11. Finnish
12. French
13. French-Canadian
14. Hungarian
15. German
16. Greek
17. Icelandic
18. Italian
19. Japanese-type6
20. Japanese
21. Korean
22. Latin-American
23. Lithuanian
24. Latvian
25. Macedonian
26. Malta_UK
27. Malta_US
28. Norwegian
29. Polish
30. Portuguese
31. Russian
32. Serbia-And-Montenegro
33. Slovenian
34. Slovakian
35. Spanish
36. Swedish
37. Swiss-French
38. Swiss-German
39. Traditional-Chinese
40. TurkishQ
41. TurkishF
42. UK-English
43. US-English
To select the keyboard layout, enter a number [default 43]:

```

7. 「Configure Keyboard Layout (キーボードレイアウトの設定)」メニューで適切なキーボードレイアウトを選択し、Enter キーを押します。

選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。

```

Discovering additional network configuration...

Starting Solaris Interactive (graphical user interface) Installation.

You must respond to the first question within 30 seconds
or the installer proceeds in a non-window environment
(console mode).

If the screen becomes blank or unreadable the installer
proceeds in console mode.

If the screen does not properly revert to console mode,
restart the installation and make the following selection:

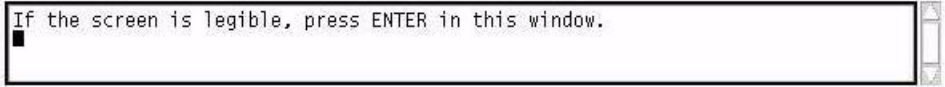
Solaris Interactive Text (Console session)

Press ENTER to continue.

```

8. 「Discovering Network Configuration and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter キーを押します。

2 番目の画面が表示されます。ここで GUI が機能していることを確認します。



9. 表示されたテキストが判読可能な場合は、この画面で Enter キーを押します。

「Language Selection (言語の選択)」メニューが表示されます。

10. 「Language Selection (言語の選択)」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0-9) を入力し、Enter キーを押します。

しばらくすると、「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。

注 – 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「Welcome (ようこそ)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「Welcome (ようこそ)」画面で、「Next (次へ)」をクリックして、インストールを開始します。

すべてのシステム情報を事前に設定した場合、設定情報の入力を求めるプロンプトはインストールプログラムでは表示されません。一部のシステム情報があらかじめ設定されていない場合は、それらの情報を求めるいくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Oracle Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Oracle Solaris のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の設定手順でこのオプションを選択した場合)、Oracle Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. [18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)に進み、Solaris のインストール後の作業を実行します。

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールを PXE ネットワーク環境から起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle Solaris 10 09/10 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 09/10 ISO DVD イメージまたは Solaris JumpStart イメージ

注 – JumpStart は、Oracle Solaris オペレーティングシステムを複数のサーバーに初めてインストールおよび設定するときの多くの手動作業を自動化します。JumpStart イメージの使用方法については、『Solaris 10 09/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』を参照してください。

インストールを開始する前に

Oracle Solaris 10 PXE インストールを開始する前に、次の要件を満たす必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の作業を完了しておくようにしてください。
 - インストールをエクスポートするように PXE 起動インストールサーバーを設定します。

注 – 複数の DHCP サーバーを含むサブネットでは、PXE ネットワーク起動は正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

- Sun Fire X4470 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを、PXE 起動インストールサーバーでクライアントシステムとして設定します。

ネットワークから Oracle Solaris 10 を設定およびインストールする方法については、『Solaris 10 09/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。

- 使用するインストールメディアソースが JumpStart インストールイメージの場合、そのイメージを適切に準備してインストールできるようにします。このガイドでは、JumpStart インストールの正しい設定と配備の方法については説明しません。

Oracle Solaris JumpStart イメージの作成方法については、『Solaris 10 09/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』を参照してください。

次に示す手順の完了後、この章で後述するインストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

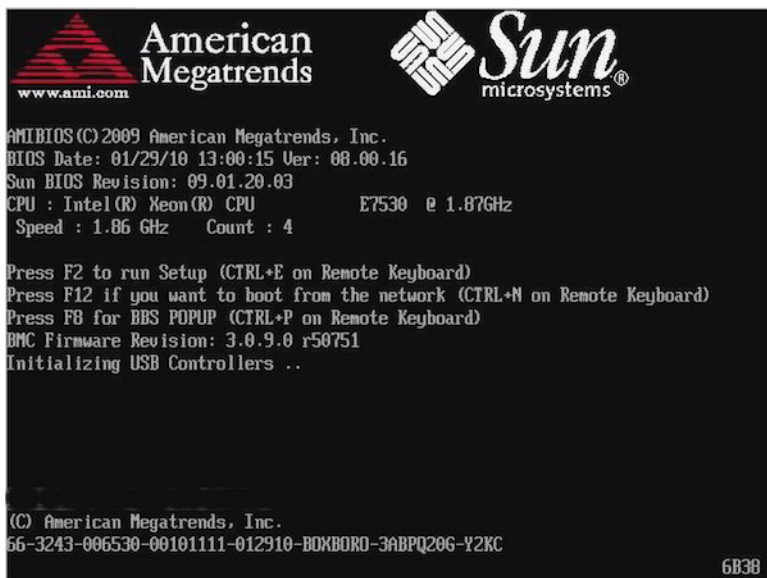
1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Solaris のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。

詳細は、[13 ページの「インストールを開始する前に」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように表示されます。

- **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。

- ローカルサーバーを使用する場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。



注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。
4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、適切な PXE 起動ポートを選択して、Enter キーを押します。
PXE 起動ポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定された物理ネットワークポートです。
「GRUB」メニューが表示されます。

5. 「GRUB」メニューで、「Solaris_10 os」を選択し、Enter キーを押します。

注 – インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行の起動フラグに `,console = ttya` を追加します。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「Install Type (インストールの種類)」メニューが表示されます。

6. 「Install Type (インストールの種類)」メニューで、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択します。
- グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト) – 1 を入力して Enter キーを押します。
 - デスクトップセッションからのテキストインストーラ – 3 を入力して Enter キーを押します。
 - コンソールセッションからのテキストインストーラ – 4 を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類によって異なります。この手順で示す画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「Configure Keyboard Layout (キーボードレイアウトの設定)」メニューが表示されます。

7. 「Configure Keyboard Layout (キーボードレイアウトの設定)」メニューで適切なキーボードレイアウトを選択し、Enter キーを押します。
- 選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。

```
Discovering additional network configuration...

Starting Solaris Interactive (graphical user interface) Installation.

    You must respond to the first question within 30 seconds
    or the installer proceeds in a non-window environment
    (console mode).

    If the screen becomes blank or unreadable the installer
    proceeds in console mode.

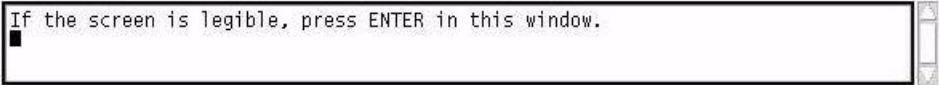
    If the screen does not properly revert to console mode,
    restart the installation and make the following selection:

    Solaris Interactive Text (Console session)

Press ENTER to continue.
```

8. 「Discovering Network Configuration and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter キーを押します。

2 番目の画面が表示されます。ここで GUI が機能していることを確認します。



If the screen is legible, press ENTER in this window.

9. 表示されたテキストが判読可能な場合は、この画面で Enter キーを押します。
「Language Selection (言語の選択)」メニューが表示されます。
10. 「Language Selection (言語の選択)」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0-9) を入力し、Enter キーを押します。
しばらくすると、「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。

注 – 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「Welcome (ようこそ)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「Welcome (ようこそ)」画面で、「Next (次へ)」をクリックして、インストールを開始します。

すべてのシステム情報を事前に設定した場合、設定情報の入力を求めるプロンプトはインストールプログラムでは表示されません。一部のシステム情報があらかじめ設定されていない場合は、それらの情報を求めるいくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Solaris のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の設定手順でこのオプションを選択した場合)、Oracle Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. [18 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)に進み、Solaris のインストール後の設定作業を実行します。

Oracle Solaris のインストール後の作業

Solaris のインストールと Oracle Solaris オペレーティングシステムの再起動が完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 18 ページの「重要な Solaris パッチのインストール」
- 18 ページの「RAID 管理ソフトウェアのインストール」

注 – この節に記載されている SAS PCIe HBA オプションカードのいくつかは、まだ購入できない可能性があります。Sun Fire X4470 M2 サーバー用に購入できる HBA オプションカードを決定するには、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。
(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

重要な Solaris パッチのインストール

次の Web サイトでパッチ情報を参照し、必要であれば、システムにインストールするパッチを決定します。

(<http://support.oracle.com>)

RAID 管理ソフトウェアのインストール

サーバーにオプションの SGX-SAS6-R-INT-Z HBA をインストールしている場合、Tools and Drivers Firmware の一部として使用できる RAID 管理ソフトウェアをインストールする必要があります。RAID 管理ソフトウェアをインストールしない場合、Oracle Solaris OS はディスクエラーを検出および報告できません。**付録 C** を参考に、最新の Tools and Drivers Firmware をサーバーにダウンロードできます。

RAID 管理ソフトウェアのインストール方法については、HBA に付属のドキュメントか、次の Web サイトで入手できる『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』を参照してください。(<http://www.lsi.com/support/sun/>)

付録 A

サポートされるインストール方法

サーバーに Solaris オペレーティングシステムをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [19 ページの「コンソール出力」](#)
- [21 ページの「インストール起動メディア」](#)
- [23 ページの「インストール先」](#)

コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シリアルコンソール • VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。 2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。 3. シリアルコンソール接続の場合のみ、start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 <p>サーバー SP との接続の確立方法については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。 1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。 1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します(<code>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</code>)。2) Oracle ILOM コマンドラインインタフェースにログインします。3) start /SP/console と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>

インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースに必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) 	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <p>CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。</p> <p>CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを必ず確認してください。</p> <p>デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。</p> <p>デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認する必要があります。</p> サーバーの Oracle ILOM SP に対する Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。 Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。 <p>CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。</p> <p>CD/DVD-ROM ISO イメージ起動メディアの場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。</p> <p>フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します (該当する場合)。</p> <p>フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。</p> <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE 起動経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。 - Solaris JumpStart イメージ - RHEL KickStart イメージ - SLES AutoYaST イメージ - Windows WDS イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。 3. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストールターゲット

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または 半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の設置と電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。	付録 D に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。
ファイバチャネル (Fibre Channel、FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) が搭載されているサーバーでは、外付けの FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーに FC PCIe HBA が正しく設置されていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバースerviceマニュアル』を参照してください。 ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA の付属ドキュメントを参照してください。 	付録 D に示す、すべてのオペレーティングシステム。

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ハードディスクドライブまたは半導体ドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
 - システム日付
 - 起動順序
-

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[20 ページの「OS インストールを実行する際のコンソールオプション」](#)を参照してください。

▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

サーバーの電源をリセットするには、次の手順を実行します。

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、次に、「Select Action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**

BIOS 画面が表示されます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL (キャンセル)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
 - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「Boot (起動)」メニューを選択します。

「Boot Settings (起動設定)」メニューが表示されます。
6. 「Boot Settings (起動設定)」メニューで、下矢印キーを使用して「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」を選択し、Enter キーを押します。

「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度がもっとも高いデバイスです。
7. 「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - b. 「Options (オプション)」画面で、上矢印キーと下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Boot (起動)」メニューおよび「Options (オプション)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

注 – 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

または、「Exit (終了)」メニューで「Save (保存)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

注 – Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。このため、「Remote Console」ウィンドウの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

付録 C

Tools and Drivers Firmware のダウンロード

ツールおよびドライバのファームウェアが含まれたオプションの Documentation and Media Kit DVD を注文していない場合、または Tools and Drivers Firmware にサーバー用の最新のツールとドライバが含まれていることを確認する必要がある場合、この付録で説明しているダウンロード手順を実行します。

注 – Documentation and Media Kit DVD は、Oracle eDelivery サイトでいつでも注文できます。(<http://edelivery.oracle.com>)

ダウンロード手順

Tools and Drivers Firmware の ISO イメージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

▼ Tools and Drivers Firmware のダウンロード

1. (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチとアップデート)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。

5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし、選択肢を表示してから、該当するリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4470 SW 1.1 リリース向けのパッチ 10266805) を選択します。
10. 表示された右側のウィンドウで、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

付録 D

サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 D-1 では、本書の発行時点で、Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

サポートされているオペレーティングシステム

Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはそれ以降のリリースのインストールと使用をサポートします。

表 D-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Datacenter Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Datacenter Edition (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4470 M2 サーバー Windows オペレーティングシステム設置マニュアル
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux• Oracle Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット)• RHEL 6.0 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4470 M2 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Solaris 10 09/10 または以降のリリース	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4470 M2 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">• Oracle VM 2.2.1	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4470 M2 サーバー仮想マシンソフトウェア設置マニュアル

索引

B

BIOS

設定の確認, 25

電源投入時の自己診断テスト画面, 7

BIOS 設定ユーティリティー, 26

D

DHCP サーバー

推奨される数, 13

G

GRUB メニュー

Solaris OS, 8

J

JumpStart ユーティリティー

Solaris OS, 12

M

MAC ネットワークポートアドレス, 13

O

Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション

Solaris OS のインストール, 8

P

PXE インストール

Solaris OS, 12

R

RAID 管理ソフトウェア, 18

RAID ボリュームの作成, 2

S

Solaris OS

JumpStart ユーティリティー, 12

Oracle ILOM Web インタフェース, 6, 13

Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション, 7

「Welcome (ようこそ)」画面, 12, 16

一時起動デバイス, 7

インストール

GRUB メニュー, 8

インストール後の作業, 18

「インストールの種類 (Install Type)」

メニュー, 9

「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニュー, 9, 15

「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 8

「言語の選択 (Language Selection)」

メニュー, 11, 16

サーバーの電源のリセット

サポートされるインタフェース, 6, 13

サポートされるバージョン, 32

テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 11, 16

ドキュメント, 2

「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network Configurations)」画面, 11, 16

パッチ, 18
ローカルまたは遠隔メディアの使用, 5
Solaris OS のインストール
キーボードレイアウトの選択, 10
PXE ベースのネットワークからの遠隔メディア
の使用, 12
インストール前の注意事項, 2
キーボードレイアウトの選択, 15
言語の選択, 11
作業の概要, 3
サポートされるインタフェースの種類, 9
自動再起動, 17
準備すべき事柄, 6
追加ソフトウェア, 18
ローカルまたは遠隔メディアの使用, 6
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA, 18

T
Tools and Drivers Firmware, 18

W
「Welcome (ようこそ)」画面, 12, 16
Windows OS、サポートされるバージョン, 32

い
一時起動デバイス
Solaris OS, 7
インストール起動メディア, 21
インストール後の作業
Solaris OS, 18
インストール先, 23
「インストールの種類 (Install Type)」メニュー
Solaris OS, 9

お
オペレーティングシステム、サポートされるバー
ジョン, 32

か
仮想マシンソフトウェア、サポートされるバー
ジョン, 32

き
「キーボードレイアウトの設定 (Configure
Keyboard Layout)」メニュー
Solaris OS, 9, 15
「起動デバイス (Boot Device)」メニュー
Solaris OS, 8
起動メディア, 21, 22

け
「言語の選択 (Language Selection)」メニュー
Solaris OS, 11, 16

さ
サーバーの電源の投入, 6
サポートされているオペレーティングシステム
最新リストの URL, 31

て
テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 16

ね
「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network
Configurations)」画面
Solaris OS, 11, 16

は
ハードディスクドライブ、インストールターゲット
として, 24
半導体ドライブ、インストールターゲットと
して, 24
パッチ
Solaris OS, 18

り
リモートコンソール、OS インストールに使用, 20

ろ
ローカルコンソール、OS インストールに使用, 20